

日刊 動労千葉

81.11.17
No.897

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五〜六(公衆)〇五五(22)七二〇七

『当面する合理化攻撃』と『81新賃金配分』の闘いについて 意志統一

11/13 全支部交渉部長会議 開かれる

十一月十三日、動力車会館で全支部交渉部長会議が開催され、当面する交渉事案について、三五万人体制合理化攻撃、八一年新賃金配分、退職勧奨年令引き上げ問題を中心に論議し、取り組みについて意志統一を行った。

先行する要員合理化

会議は森内特執を座長に進められ、本部を代表して水野副委員長のあいさつを受けたのち、布施交渉部長から方針提起が行われた。その概要は、
① 軍事大国化攻撃の強まりと、「行革」をテコとする総評労働運動圧殺策動が強められているという情勢と、これに迎合・屈服する右翼労働戦線「統一」を背景に、国鉄三五万人体制攻撃が職場を直撃する段階に立ち至っている。
② 三五万人体制合理化攻撃に対し、国労・動労中央が屈服し、動労「本部」革マル反動分子は合理化の先兵に転落している。

こうした情勢の中で、政府・自民党と資本の側は、第二臨調答申で「国鉄職員を二十万人台にする新たな合理化計画を、一〇二年のうちに策定する。」というところまで、攻撃をエスカレートしてきている。今こそ労働運動のあるべき姿―路線の方向性を提起して闘いを実践し続けてきた動労千葉の闘いの真価を発揮すべきときである。

③ 国鉄再建法にもとづく国鉄当局の「三五万人体制合理化計画」更には「経営改善計画」は、完全に破産しているにもかかわらず、当局は、「計画」の基本的部分での論争から逃げ、要員合理化のみを先行させようとしてきており、具体的には、
(1) 「五六年度」中に、検修上廻り・蓄電池検修作業・小名木川駅のフロントおよび入換作業・飯岡など十三駅の業務等々の民託化。
(2) 次年度計画として、検修体系の根本的組みかえと、検修業務の全面民託化への布石としての検修下廻り民託化。
(3) 東北、上越新幹線開業を節とする、旅客・貨物全般にわたる基地集約、機関車削減、乗務員運用合理化、貨物駅・ヤードの集約、等々の「57・11」段階の合理化。

④ 以上の合理化事案のみを見ても、極めて厳しい情勢にある。更に、われわれは、八一年新賃金配分における当局の狙いを見ればおかげにならない。
それは、あたかも組合要求に当局が応えるかのような形をとりつつ、出されてきた「号俸の中抜き」「職群の改正」「退職勧奨年令60才に引き上げ」などの提

案について、当局の国鉄労働運動圧殺攻撃であり、「本部」革マル反動分子・土屋一派を尖兵とする「職場規律の厳正」攻撃と一体の新マル生攻撃として、厳しく見すえなければならぬ。

「職場の力関係の逆転」狙う当局

以上の提案の後、四時間にわたる活発な討論が行なわれ、今後の闘いについて、次の確認を行なった。

- ① 合理化絶対反対の路線的優位性を堅持して闘う。
- ② 全労働者の闘いの高揚をかちとるため「12・3労働者集会(動労千葉主催)」の圧倒的成功をはじめとする闘いを強化する。
- ③ 闘いの原点は職場―生産点にあり、当局の狙いが明確に「職場の力関係の逆転」にあることを見すえ、闘いを展開する。
- ④ 支部大会、集会、個別オルグ等を展開し、厳しい情勢と各事案の具体的内容についての認識を全体化する。

合理化攻撃と一体のマル生攻撃を許すな!

全支部交渉部長会議は、以上のように厳しい情勢の中で、全力をあげて闘いぬくことを全体で確認した。「合理化事案の詳細」「賃金配分」「特延長問題」については、今後「交渉ニュース」などで詳細を明らかにするが、われわれは、かつて「助士廃止」や「再建十ヶ年計画」などの合理化攻撃が、職群制度が実施され(一九六九年十月)賃金体系の改訂をテコに職場混乱を狙ったマル生攻撃と同時に行なわれてきた歴史の教訓をふまえて闘いぬかばならない。
新たなマル生攻撃は、すでに始まっている。
職場から討論をまき起し、三五万人体制を粉砕してゆこう!

右翼労働戦線「統一」粉砕・三里塚二期着工阻止

- 一、主 催 国鉄千葉動力車労働組合
- 一、基調報告 動労千葉書記長 中野 洋
- 一、日 時 十二月三日 午後五時三〇分
- 一、場 所 東京・牛込公会堂(飯田橋駅下車)